

<連載 17>

## 想像力が 未来を 切り拓く！

～ささえあい・地域共生社会を目指して～

理事長 高見 優

- 皆さんのお手元に「創立15周年記念誌」は届いたでしょうか？ 5年ごとに記念誌を発行し、3回とも就労間もない職員が編集に関わりました。無茶振り？という声もありましたが、「協同労働」の意見反映・参加に期待したからです。
- 当生協＝協同組合は組合員のもので、その声を聴くことを重視して編集しました。組合員から様々なご意見・ご提案やお叱りもいただきました。多様性を重んじながら、法人の運営と事業経営に活かしていきます。

### 井戸端会議つづき

#### ■ お金・商品と今の社会・時代のことなど

**Kさん：協同、70代** 前回、皆さんの考えを聞きたいとお願いましたが……

**Cさん：コミユ夫、40代** お金・商品のことを考え、ガンジーが、「北の国（先進国）が、南の国（途上国）からの収奪に依存している」と言っているのを読み、気候変動とも関連して私たちの暮らしの在り方の見直しが必要だと思いました。

**Sさん：ささ江、10代** 私はあまり社会のことを知らないと感じました。熊本の高校3年生の山口凌さんが、祖母からお兄さん（大伯父）が沖縄で戦死したのに遺骨も戻らず「会いたい」というのを聞いて、自分で調べて沖縄まで遺骨探しに行ったそうです。ビックリしました。



**Kさん** 私も先日（8/10）、NHKのラジオ深夜便（\*「明日への言葉」）で本人の話を聴きました。お祖母さんのために沖縄のガマ（洞窟）に入って遺骨収集に参加したり、「記憶を受け継ぐことが重要」「戦争体験者の話が聞ける最後の世代として平和、戦争について考える機会を設けたい」と話したり、実にしっかりした若者ですね。

**Cさん** 8/1の朝日新聞Globe「若者と外国人」によると、日本財団が2019年に、アジア6か国、欧米3か国の若者各1000人の意識調査をした結果、「自分で国や社会を変えられると思う」と考える日本の若者（17～19歳）は最低の18.3%、インドネシア68.2%、アメリカ

65.7%、中国65.6%、英国50.7%、ベトナム47.6%、ドイツ45.9%、韓国39.6%だったそうです。でも日本の高校生にも山口さんのような人がいるし、Globe紙面でも最近の若者の中には社会活動をする学生も増えているというコメントがあり、希望が持てる思いがしました。

**Kさん** そうですね、日本の若者の

「無力感」は、置かれた教育現場や育った社会環境にも原因があるかもね。ささえあい生協は昨年、事業現場から新理事が4人選任され若返りができました。また、本部事務局の機能も向上し、コロナ禍の国の各種制度に対応・申請して1824.7万円もの緊急助成金が支給されました。他の法人は面倒な申請書類づくりを敬遠したのか介護関係の「かかり増し経費」を申請した事業所は全国で半数以下だったという。当生協は申請しほぼ満額が認められIT機器など必要な設備を揃えることができました。



**Sさん** ささえあい生協について、もう少し教えてください。新潟大学で「協同組合」の特別講座（寄付講座）をやっていると聞きました。私も大学に行きたいけれど、何のために大学に行くのか、将来やりたいことがわからない人が多いらしい。私もまだ決めていませんが……

#### ■ 働き方と生き方、老いも若きも。

**Kさん** 寄付講座は地域の諸団体で協力して開催し、当生協から私が1コマ担当しています。提出された学生のレポートに、「大学生になると就職も見えてきて、働き方の窮屈さに希望を失いそうになる」など不安な気持ちの学生が多く、私の講義（仕事おこし）を聞いて「自分もやりたいことを見つけない」「公務員か株式会社に就職するしかないと思っていたけれど、ほかの道も考えてみます」など

という類似の感想が幾つかあり、「働き方・生き方」についてのヒントになればうれしい。

あと、「天寿園」のきままカフェに行ってみます、という学生がいました。事業の宣伝ができてよかったです。

**Cさん** 僕も学生時代に講義を聞いてみたかった。ささえあい生協ではたらく人の年齢はどうなっていますか？

**Kさん** 7月のデータでは、50歳未満44%、60歳以上43%、最高齢80歳です（総数264人）。定年制は廃止している。Cさんより高齢の方が当生協に入って介護職ほか新たな仕事を始めたケースもあります。思い立ったが吉日でいつでも誰でもチャレンジ可能という私のメッセージに驚いた学生が多かった。（59歳で社会福祉士資格を取得した私の経験話など）

**Sさん** 「レールを外れたらお終い」と思いこまされている私たち・・・

**Kさん** 話が変わるけれど、先日、さ生協の職場で「平和を祈る、黙とう」をしました（3年目）。その文面に「大石又七さんの言葉を胸に」と書きましたが、大石さんは太平洋ピキニ環礁で米国の水爆実験（1954年）で死の灰を浴びた方です（本年3月、87歳で逝去）。被爆後、故郷を離れ、家族や周りに口を閉ざしていたけれど、30年後に小学生に頼まれ語り始める。「大人たちはもうダメだ。これからの子どもたちに新しい未来を託すしかない」と亡くなるまで社会に向けて発言し続けられました。

**Sさん** 私もテレビで大石さんを取り上げた番組を観ました。小学生のときに話を聞いて、現在、社会科の先生になった方も登場しており、今度はその方が学生に伝えていました。先ほどの山口さんの姿とダブリます。

## ■ いつまでも 地域で ささえあいながら 暮らし続けたい

**Kさん** 標題にあげた「想像力が未来を切り拓く」の意味は、まず「事実」「歴史」を知り・学び、そこに想像力を

働かせることが大切であり、そのことが未来を切り拓くことになる、ということです。戦争体験者、被爆者や周りの困難を抱える人たち、もちろん自分自身も含めて、お互いに仲間（他者）のことを本当に理解しあえるのかどうか？

「他人事」だから完全には分からないかもしれないけれど、想像力を働かせて「自分事」として理解しようとする、心の距離を縮めること、はできるはずですよ。

ジョン・レノンの「イマジン」の歌詞のとおりイメージ（想像）すれば、確かに「原水爆」は3-11（福島原発震災）に繋がっており、認知症は明日の我が身かもしれないし、災害は毎年のように各地で発生し M&A や企業倒産で失業や困窮に陥る恐れもあるでしょう。つまり、自分と他者（自然も含めて）の問題は必ずどこかでつながっている。同じ社会・環境の中で暮らしているわけですから、私たちはみんなで「ささえあいコミュニティ」=地域共生社会を目指していきたい、と思うのです。

**Cさん** 僕も、今いる会社の中で自分たちのやれることを考えて、仲間と一緒に進んでいきたいです。



**Sさん** 私も、自分の進路を考えると、社会との接点を見つけられる場所を探したいと思います。

**Kさん** 学校や職場、たとえ外国にいても、広い意味で同じ社会・時代に暮らしている。また、グローバル時代だから、衣食住からお金・情報ほかすべての商品が地球を駆け巡っている。だから、それらによって生き・生活している私たちは、現代社会のすべての問題に関係していると自覚すべきだ、と思うのです。

縁があって、「井戸端会議」ができて楽しかったし、他世代（多世代）の考えや意見が聞けてよかったです。これからも機会を見つけて、いつでも対話できればと希望します～協同社会を生きる「同志」として。

**全員** ありがとうございました。



(\*)「ラジオ深夜便」：NHK ラジオ第1、NHK-FM 毎日 午後11時5分から翌日午前5時まで。最近「らじるらじる」で1週間「聴き逃し」番組が聴ける。（<https://www4.nhk.or.jp/shinyabin/>）

「明日への言葉」は午前4時から。なお、秋田宏さんが自力で2013年から同番組を文字おこしされ、自前のブログにアップされています。（<http://asuhenokotoba.blogspot.com/>）

（ご感想・ご意見をお寄せください：編集部）